

# フレベール自傳

(第十二回)

(マイニンゲン大公に宛てたる書翰)

倉橋 惣三譯

七十九、子供の贈物

人は多種多様な形貌を備へた自然を認識するに止らず是非とも自然の内的努力の渾一、その効果的な威力の渾一を知解せしめられます。それ故人はその發達及び教養の方針に於て自然の方法に従ひます。而して遊戯に於て人は自然の創造の仕事を模倣します。

結晶の定形の如き自然の最初の成形物はそれらとは關係のない或る秘密の力によつて造り出さるるやうに思はれます、而して子供は一つを知つて他を推すことが出来るやうにその第一の遊戯に於てこれらの自然の第一の動作を喜んで模倣します子供は建築に興味を持つてはありませんか、而

して自然の最初の定形は築き上げられた形體でなくて何物でありませうぞ。

子供が自分で選ぶ仕事や遊戯の中に深い意味が含まれてゐるといふ啓示はこれで充分な筈であります。而して子供のこの自發的の動作が未だ高い見地から充分に考へられてゐませんし又その宇宙的、人類學的といつたやうな方面から觀察されてゐませんから誰か哲學者がそれに就て理解ある立派な本を書かれんことを日々に望んで歇まないのであります。

注意力、不斷の興味、愉悅（これらを以てこの仕事が生子供によつて精を出される）から全然性質を異にした他の重要な思索が起つて來ます。

子供の遊戯は必然的に子供を前よりも廣い充實した關係、前よりも高尚な觀念の群れとの關係に導きます。

子供が家を建てる？——子供は大人の眞似をしてその中に住みたいからそれを建てるのであります、而して大人のするやうに戸棚や何かを持つてゐてその中から物を取り出して他人に與へたいのであります。而して私達は常に斯ういふことに注意を拂はねばなりません。といふのは贈物を受ける子供はそれがために萎縮したこせついた性質を持つ筈はないといふことであります。子供はその與へられた多寡によつて與へることが出来るに違ひありません、實際これは質樸な心を持つてゐる子供には必要なことであります。

心のこの要求を如何にして満足せしむべきか、如何にしてその創造に係る種々の贈物を與ふべきかといふことを知つてゐる子供は幸福であります人間性を備へた完全な子供としては、男の子は

極度まで望み、味ひ、與へるべきであります。故ならば子供は既に自分が完體——宇宙——濶大なる自然に屬して居り、自分が生きてゐることはその部分を爲すものであるといふことを臆氣ながらも感じて居るからであります。

それ故に如上の意味を理解して子供は考へられ取扱はれたいものであります。

子供がこの事を感じた時こそこの階段に於ける人間に役に立つ進歩の最も重要な意義が発見された時であります。

斯る時に於ける善意をもてる子供に取つては共有物のために役に立ち、子供と子供を愛してくれ人との連結のために役に立たないかぎりはずべてのものは何の價值をも持つてゐません。

子供の性格のこの方面は兩親や教師によつて充分に注目されなければなりません。而して兩親や教師によつて子供の性質の活動的な直覺的な方面を勵まし養うてゆく手段として用ゐられなければ

なりません。それ故に甚麽ものでも、子供の贈物なら如何に僅かなものでも氣に止め、顧られないやうなことがあつてはいけません。

八十、再びイベルドンへ

教育者としての私の最初の企圖を一口に言ひ現せば私は一生懸命になつて私の生徒に出来るかぎり善き教育、出来るだけよき訓育、教養を與へたいと望んだのであります、けれども私はその頃私がかつてゐた位置と私自身の持つてゐた教養とを以てしては私の計畫を實行し私の目的を達することは出来ませんでした。

このことが明かに分つて來ましてからすぐ私はしばらくの間ベスタロツチの許へ行つて滞在してゐるに若くはないといふ考へが起つて來ました。

私は自分のこの考へを判然と言ひ現しました、而して一八〇八年の夏、私は三人の生徒を伴つてイベルドンを訪れることに専りました、乃でしばらくすると私は同時に教師でもあり、研究生でも

あり、教育者でもあり、生徒でもあるといふことになつたのであります。

私がイベルドンに於て期待してゐたすべてを簡単に言つてみますとそれはあらゆる創造活力に於て生活を刺戟し表現し、人の多面なる心を満足させ、内的に外的にその力を得たる青少年の潑刺たる内的生活であつたのであります。乃で私はベスタロツチはこの生活を仕事の中心であり、源泉であり、精神的師導者であるに違ひないと想像しました。ベスタロツチは彼の意見に基いてあらゆる動作に於ける子供の生活を注目し子供の發達のすべての階段に於てその生活を見てゐるに違ひない、又何はともあれ個人生活として、家族的生活として、社會生活として、國民生活として、更に一般的に人類生活としての子供の生活に同情し子供と一緒に感じてゐるに違ひないと想像しました。

這麼想像をして私はイベルドンへ着きました、イベルドンでは解釋の附かぬやうな教育上の問

題はありませんでした。

私の心が私の周囲の生活を忠實に映じたことは一八〇九年の私の報告が充分に語つて居ります。

ベスタロツチの仕事の眞髓に觸れるために私は校舎内の主要建物即城そのもの、中へ住みたいと思ひました。(註、ベスタロツチはその教育事業を完成すべくイベルドン城を市より借受け居たるなり)

私達は普通の研究生と同じくこの願ひは許さるべきでありましたが外部から嫉妬の邪魔が入つて許されませんでした。けれども私は直きに校舎から程遠くない場所に宿を求め得ました、それ故私達は生徒に混つて食事を共にしたり私達に課せられた學課に於ては生徒と一緒に勉強したりすることが出来ました、つまり生徒連とまるつきり同じ生活をすることが出来たのであります。

私は直きに不完全なことを澤山見ました、けれどもそれにも係らずすべての方面に漲り亘つてゐる

活動、生々とした努力、私を取巻いてゐた生活の精神的努力(それはその勢力の範圍内に來るすべての人々を惹きつけると同じやうに私をも惹きつけて了ひました)は私に私がこゝで應がてすべての私の難問を解決することが出来るであらうといふことを納得させました。

私自身に就てのみ云ふならば私は何時も私の生徒が身心共に元氣に充ち満ちてゐるこの生活から充分出来るかぎりの利益を受けてゐるか何うかといふことを注意するに餘念がありませんでした。

これがために私達は皆と一緒に課業を受けました。私はベスタロツチと共に教授科目の各科の關係の第一點から考へ出すために各學科を根本から研究することを私の特別の仕事としました。

#### 八十一、懐らざる教育法

強制的な包含的な刺戟的な生活は私をも刺戟しました、而してその包含力とその威力とを以て私を捕へました。

それが多くの不完全や欠點にまで私を盲目にすることの出来なかつたことは事實でありませんが是等の不完全や欠點は全組織の一般的性質及び努力によつて補はれました。何故ならばこのことは當時にあつても明々白々な二三の絶對的矛盾を含んでは居りましたが尙大體に於てその內的連結と伏在せる渾一とを主張してゐたからであります。

ベスタロツチが語る時には、その力強い定め難い激勵的な向上的な効果が人々の心をして高尚な生活に——彼はそれに達すべき道を明瞭確實にしたのではありません又それを成し遂ぐべき手段を指し示しもしませんでしたが一向つて燃え立たしめました。

斯く教育的努力の力と多種なることが渾一及び包含力に於ける缺乏を補つたのであります、而して愛、温情、完體の活動、人の親切心、及びその仁慈が明瞭、深味、徹底、ひろがり、忍耐、確固不拔の缺乏を補充しました。

斯うして教育の各分科は充分興味を感じてゐるやうな状態に居りました、けれどもそれはたゞ更らに小區分に分類することをのみ心掛けてゐて渾一に向つて資するところがありませんでしたから觀察者を満足させる程充分には行つてゐません、手段及び目的の兩つながらに關して努力の渾一の缺乏を私は直きに感じました、私はそれを種々の事柄が教へられる所の方法の不充分、不完全、不似合の中に認めました。乃で私はすべてのものに關して出来るかぎりの洞察力を得やうと試みました、而してすべての學科——算術、禮儀作法、唱歌、讀書、圖畫、國語、地文學、自然科學等の研究となりました。

私は今までよりも高尚な何物をか見ることが出来ました、而して私はより高い効驗に於て全教育組織の緊密な渾一を信じました。勿論ベスタロツチ自身よりも大なる確信を懷いてゐたのではありませんが眞實私は私がこのことを今よりも一層明瞭

に悟つたといふことを信じたのであります。

私は眞の教育方法を施してこれを發達させて行く國及び其處に住める人々を幸福であると信じました、而して私の國に於けるこの教育方法の効果を知らたいといふ望みは郷土を愛する心から自然湧き起つて來ました。このことに就ては既に述べた一八〇九年の記録の中に記してあります。

不統一の原因があるところには完體は分裂し、時には全部矛盾せる諸部分に分離されます、而して絶對に調和的な渾一が缺けてゐるところには甚麼連結があらうともそれは内部からの必然的な結合からではなく偶然な外的な係累から引き出されるのであります、全組織は己の墳墓を掘るの止むなきに至り自殺者となる他はありません。

扱て今や私はイベルドンに駐ることが善い仕合せとなるか悪い仕合せとなるかといふやうな羽目に陥りました。ペスタロッチ及びその友達の中には喜き人悪しき人、有利な人不利な人、強き人弱

き人、空虚な人充實せる人、氣儘な人謙讓な人などがあつて眞正面まともに私の前に現れて來ました。

私は偶然一八一〇年のグレート、コンミツションの時に丁度イベルドンに居合せることになりました、ペスタロッチも彼の所謂友達と稱する連中も誰も彼も私の欲するものを私に與へることが出來ませんでした、又與へることを喜びませんでした。

彼等の定めた男の子を教育する法、一大人類家族の部分としての男の子の徹底せる教育法に於て私は人類をのみ満足させるに充分な理解を見出すことが出來ませんでした。

それは博物學、自然科學、獨逸語、一般に言語といふもの、歴史、就中宗教的教化に就ても同様でありました。

ペスタロッチの献身的な講演も甚だ漠然としてゐました、而して經驗の示す所によればそれはたゞ既に正しき道にあるものにのみ役に立つのであ

ります。

私はすべて是等の事柄に關してベスタロツチと熱心にきつぱりと話しました、而して遂に私は一八一〇年に生徒を伴つてイベルドンを去らうと決心しました。

#### 八十二、言語と音樂

けれども私はこゝにそのついきを書く前に尙他の見地から私の生活と仕事とを考察してみる必要があります。

種々な學科の中で言語の授業は不揃ひな移氣な生命のない點に於て殊に缺陷が私の注意を惹きました。意に充つるやうな母國語の教授法を探し出すといふことが何よりも先に私を領しました、私は次の基底によつて進んで行きました。

言語は私達の個々の世界の映影であり再現であります、而して主に結合した秩序ある音響を通して私達以外の世界に現れて來るものであります、それですから若し私が何物でも正しく影像するな

らば私はその實體の眞性を知つてゐる筈であり、私達の映像や再現の本体即ち外部世界は諸體を含んで居ります、それ故に各體を現すために一定の形、一定の音響の連續、即ち一定の言葉といふものが必要となつて來ます。諸體は性質を異にして居ります、それ故に私達の言語には是等の性質を現すべき形容詞が必要であります、諸體の性質は根元的か或は相對的で夫等が何であるか、何を持つてゐるか、何になるかを現します。

唱歌及び音樂のことを話してみますと、私に取つて幸ひなことには丁度この頃ネーグリとプファインエルが「ベスタロツチの原理に基く音樂課程の取扱」を發表しました。ネーグリの一般の音樂に關する智識、殊に教會音樂に關する智識は私に強い印象を與へました、而して音樂と唱歌は人間の教養の機關であると私に思ひ込ませました。音樂の練習殊に唱歌の練習はそれまで私の考へてゐたよりも遙かに價值を持つやうになつて來ました。

ネーグリは音楽及び唱歌を教ふる事に於て、並

びに人間生活を淨化する刺戟物としての音楽唱歌の効能を叙述することに於て甚だ堪能でありました。而して私がネーグリのこの課業を聞いてから約二十年も過ぎたのでありますがこの課業が燃やしてくれた音楽に對する愛の炎はまだ私の胸の中に善に向つて盛んに燃えて居ります。而してその上、私は私の生徒を教へてくれた所のこの二人の優秀なる音楽教師によつて、ヴァイオリン、ピアノの如き純然たる機樂も亦歸する所二三の簡單な發聲器の獨立的發見を通して發達したのではあるが聲樂に基礎を置き、から引き出されたのであるといふことを教へられ納得せしめられました。

私は斯く開かれたる道をその時以來打ち捨て、は置かずに愛と注意とを以て絶えずその道を辿り好結果を得ては喜ぶことを怠りませんでした。

この音楽教授方針はその後擴大され應用されて常に識見もあり經驗もある音楽教師達の賞賛を贏

ち得ました。

#### 八十三、遊戯と散歩

私は又子供の遊戯、即ち戸外に於ける諸種の遊戯をも研究してみました、而して是等の遊戯が理性、心靈並びに肉體を目覺し強める偉大なる力を持つてゐることを認めました。

是等の遊戯及びこれに關係したこの中に私は學校内の生徒や若者を活氣付けた倫理的の力の主發條を見附け出しました。

私が今熱心に確言してゐる所の遊戯なるものは異常な激勵力の精神的沐浴と解すべきであります而して遊戯に對する稍高級な象徴的意義の加つた感覺がまだ私の上にて起つて來てはゐませんでした。私は餘念なく遊んでゐる子供の一人一人に於て私が大なる價値を置く所の、身心兩つながらを支配する倫理的の力を認めることが出來ました。

倫理的激勵といふ方面から見て遊戯と甚だ似通うてゐるものは散歩、殊に普通の遠足會の散歩、



特に又ベスタロッチに導かれる時の散歩でありました。

是等の散歩は常に必ずしも自然に親しむ機会を得ることを意味しはしませんでした。けれども自然そのものは、たとへ求められなくとも、常に散策者を自分の近くへ惹き寄せました。

自然に親しむことは向上であり、激勵であり、淨化であります。

自然が偉大な精神界の巨人と同じく私達を牽きつけるのはこの原因からであります。

何時でも学校の休みの時とか教へることの合間小間とかには私はその頃自然の眺望、自然の親交の中に時を過しました。

私はよく近くの高い山の巔へ登つて、明るい静かな落日、薇薔色の餘光を浴びた松林、氷河、山腹の牧場などを眺めて喜びました。

斯る夕方の散歩はいつも忙しく過した日の後には私に取つては缺くことの出来ない必需性を帯び

るやうになつて來ました。

日影うららかな廣々とした丘の上、水晶の如く透き徹り鏡の如く滑かな湖の漚、小暗き森の中にしてそゝり立つ大木の下蔭などをそゝる歩く時、私の心霊はまこと神にも似たる觀念と人の心の計り知れぬ貴さとして充たされるのであります。而して私は人類を神の寵兒であると考へて一人微笑んで居りました。

ベスタロッチの普通の講演、殊に夕方なされる講演の外には何物も問題とするに足りませんでした。ベスタロッチはその時人類の氣高き雄々しさと眞の愛との繪畫を呼び起しそれを詳細に發露することを喜びました、而して上に述べたやうな内的生活を送ることに向つて甚だ力強い貢獻をなしました。而かも尙私は空しい幻影に夢中になつてしまふやうなことはありませんでした。否、それどころか私は常に私の實務をしつかりと睡めて居りました。

亡くなつた両親のことを考へる時には何時も後に残つてゐる家族の者の上を思ひ出すのが常でありました、殊にしばらくこゝに書きませんでした。親愛な最長兄のことを思ひ出すのであります。

長兄は既に數人の子供の慈しみ深い父となつてゐました、私は長兄の取繕はぬ父らしい看守に於て分け前しました。而して私の心靈は私が最良なりとして喜んで選んでやることの出来るやうな教育を長兄がその子供に與へることが出来るやうにと望んで歎みませんでした。既に私がフランクフルトに居た時分から私は教育に關する私の意見や教育の方法やを長兄の許に書いて送つてゐました、新しい智識から割り出して長兄の場合に適合すべき事柄を抽出したり収集したり分類したりしました。第一の機會に於て長兄がそれを使用するやうに彼に與へたかつたからであります。

ペスタロツチの教育法の考察及び例證に大なる裨益を與へたことの一つは諸國の政府からイベル

ドンへ派遣されて居る多數の青年の集つてゐたことであります。是等の青年のある者とは私は非常に親密な交際を結びました、而して互ひに意見を交換し合つて自分の觀察によると同じ位の利益を得ました。

兎に角私はイベルドンに於て愉快な日を送りました、生活の調子は高められ、私の後半生は批判的に決定されました。

けれどもイベルドンに於ける生活の終る頃、私は未だ曾つて感じなかつた位明かに内的渾一と相互位屬の缺乏並びに彼の地に於ける教育の外部的理解力と徹底の不充分とを感じたのであります。